

名護市立羽地中学校自主公開授業研究会及び佐藤学先生講演会

平成26年4月18日(金)、年度始まって間もない頃に名護市立羽地中学校において佐藤学先生を招聘しての公開授業研究会と佐藤先生の講演会が開催された。名護市内から約100名の先生方が参加し、学びの共同体における授業の実際と理論(理念)について研修を深めた。

羽地中学校では現校長の島袋校長先生の提案により、校区の3つの小学校と連携し学びの共同体の理念による学校づくりと授業経営を推進している。本年度入学してきた1年生は、小学校で「聴き合う」「支え合う」対話による授業づくりを経験している。校種を超えて教師達が連携し、子どもたちによって授業づくりが引き継がれてく。・・・小学校で学んだ「学び合い」が中学校へ行ってもできる。この事実が一番安心するのは誰?…子ども達ではないだろうか。

それにしても年度当初、教師の入れ変わりも多くある中でよくぞやってくれました。新任の先生にとってはまだ2週間ちょっとですよ。まずは素直に敬意を表したい。ほんとにご苦労さんでした。

授業参観は、4校時[公開授業I]全クラスの参観と、5校時に[焦点授業]N先生による理科「運動とエネルギー」の授業が準備された。私も前年度より稲田小学校と真喜屋小学校にお世話になっており、各々の学校で学んだ「学び合い」が中学校でどのようになっているんだろう(なっていくんだろう?)気になっていたところである。4校時は1年生の3クラスの授業に張り付かせてもらいました。・・・うれしかった。感激でした。



5校時体育館における焦点授業(理科) じっくり学び、ボロボロ語り、支え合う。

☆文中の生徒の名前は全て仮名

【1年1組 社会科】 K先生

地球儀と世界地図の違いに気づき、その違いを理解する。



子ども達の思考を促すためのモノがしっかり準備されている。授業者から下ろされた課題(テーマ)について、生徒各々の気づきや、考え、「なんで?」が交流する。当然対話による交流である。生徒たちにとって地球儀は小学校の時に初めての出会いがある。しかし、今日は地図と見比べてその違いやそれぞれの利点や欠点について確かめていかなければならない、小学校時代とモノは同じ地球儀と地図でも思考していくレベルが違う。生徒たちにとっては学びの出会い直しである。

球を切り開いて平面にしたときに面積は…?方角はどうなるの…?地球儀と地図、そして教室の仲間達からの学びである。生徒たちは遠慮なく気づきを語り「なんで?」を聴き合っている。

私も安心する。小学校時代から教師達(担任)と自分たちの「学び」の積み上げが今ここで実証されている。3つの小学校からの生徒であるが全く違和感がない。「連携する・つながる。」ことの素晴らしさを実感する。…まだ出会って2週間の生徒達です。どう思われます。

【学びの質を探る】



学びの共同体2年目

真正の学びや学びの質を探る。調べて分かったことの発表だけに終わると、単に班における調べ学習になる。調べたことからの新たな気づきや、「なぜ?」がグループ内の対話で交わされているか、じっくり観察したい。

私の前のグループで地図帳の上がなぜ「北」になるのか?対話が交わされていた。地図帳の上の直線がすべて北極に集中することを仲間に説明されて「あっはあ〜」の音が聞こえた。最高の学びである。

K先生お疲れさんでした。子ども達がほんとに夢中になってテキストや仲間と対話していました。3つの教室を途中出入りしながら心苦しかったのですが…。子ども達を見て私が安心しました。これからもどんどん互見授業等で「学び合い」における子ども達の安心を広げていってください。

▲ ちょっと教師の単発的質問(フラッシュは別)や説明が多い感じがしました。説明が多く、思考することが単純だと学びの必然性が薄れて、生徒の中には退屈感を感じる子もいます。

見極めは教師の力量です。→(優しい教師ほど退屈させてしまう。)やるべきことが単純化する等

【1年2組 数学】 U先生 本時のねらい：4人グループでの活動になれる。
 授業は、年度当初を配慮して生徒に4人での活動的学習の設定をした。
 ゲームの必勝法（規則性）について考える。

【課題】：15本の棒を交互に1～3本をとって、最後の棒をとった人が勝ち。



まずは、上の3枚の写真を見てほしい。生徒の笑顔は宝である。こんなに楽しく授業できることの幸せを感じてほしい。算数から数学へ生徒は「大丈夫かな？」少なからず不安を持っていることを察したい。そこから教師の授業づくりである。ゲーム的要素を踏まえ数学的に必勝法の規則性について思考させる。授業者の心遣いがうかがえる。年度当初、新入生、配慮すべきことがクリアされ生徒の不安を払拭させたい。

【ペアからグループへ】 授業者は本時の学習のめあてや流れを確認したら【課題】について隣同士のペアでやるように促し、そのあとグループでやるように指示した。まずは隣と、そして「誰とでも」にこだわりたい。このちょっとした配慮がいい！



先手必勝法の規則性の解明であったが、写真①のグループで勝手に後手の必勝法がないか検討が始まった。決して教師に逆らいたいわけではない。先手に必勝法があるならば…「後手にだってあるんじゃない？」教師も予想しなかった「学び」の発展である。



写真①

U先生ありがとうございました。生徒がほんとに楽しく学び合っていましたね。よかった～。いつも控えめで謙虚な姿勢を崩さないU先生、もっと自信をもって生徒たちと「楽しくやっへ行こう」を前面に出してもいいのでは？ゲームや遊びの要素を授業に取り入れる時は十分気を付けてください「このゲームを通して『学び合う』ことが目的」ですよ。ゲームのやりっぱなしと感想のみにならないように気を付けましょう。

▲ 生徒は聴く姿勢ができています。大きな声で話す必要がありません。教師の声が大きいと生徒の声も大きくなります。静かな小さな声が無視されてしまいがちになります。もっとテンションとトーンを下げ対話を心がけましょう。さらに「一人ひとりの声を聴き合う」を心がけましょう。

【1年3組 国語】 R先生 本時のねらい：さまざまな季語を使って「言葉は魔法」について考えよう。

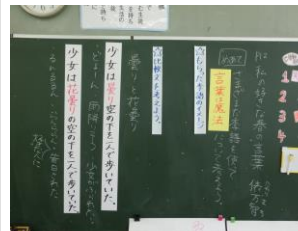
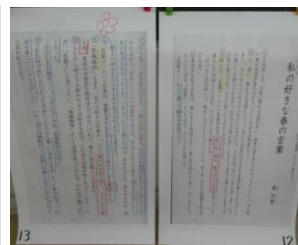


驚きであった。「学び合っている。」3つの小学校から来た生徒たちがボソボソと仲間に気遣いながらしっかりと学び合っている。教師の教材研究も、学び合う授業のスタイルもしっかり研究されている。生徒たちが仲間に気遣いながら訊き合っているのがなによりうれしい事実である。小学校のころから気になる子がこの教室にいたが…心配無用であった。



写真②

授業者のトーンも低く、授業への謙虚な姿勢がうかがえる。何よりも「授業が、私が教えることを覚えさせる授業」から「生徒が創り出す授業である」ことへの授業改善がひしひしと伝わってきた。授業者の生徒の声を聴こうとする、引き出そうとする姿勢(写真②)に、私の眼は釘付けになる。姿勢を低くし生徒の困り感に寄り添う。この授業者から生徒は多くを学ぶ



教師の声が小さくてすむ。なぜ…？ 簡単なことである。話し方よりも「聴き方」の方が大切にされている教室だからである。「分からなければ訊く」「仲間の話をしっかり聴いてあげようよ」聴き合うができていから小さな声でも話せるのである。ぜひ羽地中すべての授業（教師）でモデルにしてほしい！

R先生、素晴らしい授業でした。できれば1時間みっちり参観したかったですね。いつか機会をつくって伺うことができればと思います。グループに下ろしたときに「冬銀河」「虫出の雷」「風光る」のグループがとっても良かったです。「銀河って夏の空じゃん？…何で冬？」「雷が鳴るから虫は出てくるんじゃない？」「雷が鳴りだすところに虫が出てくるということじゃない？」等、私の目の前で楽しい深い学びが自然に対話されていました。まさに仲間の感性からの学びである。素敵な授業ありがとうございました。

焦点授業【 3年2組 理科 単元名：運動とエネルギー 】 N先生

本時のねらい：運動のようすをエネルギーと関連付けて説明できる。



体育館の特設会場で焦点授業が行われた。参観する先生方も100名近い、羽地中が市の指定研究を受けて2年目である。4月の月上旬にこれだけの教師が集うことはめったにないことではないだろうか。

焦点授業の後には学びの共同体スタイルの授業研究会が行われたが、先生方の視点が生徒の学びの授業視点になりつつあることに未来を期待したい。



【共有課題】AとB、ビー玉はどちらが早くゴールするか。(運動エネルギーと関連付けて説明する。)

モノがあり(写真③)、対話があり協同がある(写真④)。



写真③

個人の予想を立てさせたらすぐにグループで話し合っ
てホワイトボードにまとめる作業になった。ポソポソ
ぶつぶつ各々の考えが交流する。「なんで?」分から
ないが違和感なく交流する。生徒の表情も実に柔らか
い。正直言ってびっくりである、前回1月の雅彰先生
の訪問の時には見られなかった教師の柔らかさと、な
んといっても生徒たちの表情の良さに驚かされた。



写真④

授業研究会では前年度から関わる村瀬先生から「羽地中の底力を見せてもらった。」とうれしい言葉を頂いた。



写真⑤



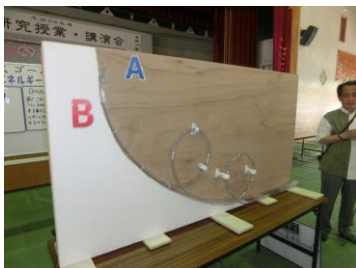
写真⑥

写真⑤、【共有課題】の発表である。理科的な言
葉を使って各グループが出し合う。写真⑥、仲間
の発表に向けられる仲間の視線である。両者の息
づきがひとつになる。分かってもらおうと必死に
説明し、さらにいいのが「分かってあげよう」と
向き合って聴き入る仲間たちの存在である。

安心して語れるのは、「仲間が聴いてくれる」
の根拠に裏付けられている。

【ジャンプ課題】AとBを同時に転がす。回転する抵抗の位置が違う。どちらが先にゴールしますか。

まず、なによりも、この教具を準備した授業者に頭が下がる。かなり大きい。
視覚化(ビジュアル)という言葉在最近聞くが、課題のきいていることが一目
瞭然である。生徒たちが問いをイメージしやすい。



提示された教具を見ながら、ワークシートを前に仲間
との対話から自分の言葉で綴る。生徒の思考が加速す
る。…これだけの教材研究と教具の準備にどれほどの
運動エネルギーが注がれただろうか。参観された先生
方や同僚はN先生のエネルギーも感じてほしい。

【2枚の写真】 やってみたい。試してみたい。

ジャンプ課題の前に、二人の女の子が前に出てきた。
やってみたい、試してみたいである。

数学等で電子黒板を使って解説している教師をよく
見る。あの作業をどうにか生徒たちにさせられないだ
ろうか?生徒を見てほしい、信じてほしい、生徒は
自分でやってみたいと思っているのではないだろうか?

事実、国頭のへき地の子ども達(小学生)は、日々電子黒板を楽しそうに使って仲間に説明している。



N先生、見事な授業でした。先生の言葉や仕草から、去年まで抱えていた不安や疑念を乗り越えた姿を感じ
ました。生徒たちも素晴らしかったです。教師と生徒の関係がいいから見せられるのですね。感謝します。

【授業研究会・講演会より】・・・私が記録できた範囲で抜粋します。

村瀬：生徒たちが理科的な言葉に苦労しながらもしっかり挑戦していた羽地中の底力を見せてもらいました。

岸本：弱い子どもたちも投げ出さず、仲間に「訊きながら」しっかり学習に参加していました。

佐藤：1年でよくここまで頑張ってきた。まだ、「訊けないで」固まっている子がいる。



1年生がよかった。小学校からのつながりが有効的である。1年生は10
月から勝負。クラスに数名「学び」からの逃避を感じられる子がいる。
教師と教室の仲間であまり受け入れ方を模索してほしい。決して無視されないよ
うに、一人残らずにこだわってほしい。教師一人でのケアにも限界がある
「仲間は、仲間で支え合う」を基本にする。教師ががんばる、授業を雑に
しない。 学び合いと話し合いのちがひ。ホワイトボードの使い方等。

国頭学びの会ゆい